(1) 親潮の特徴

親潮は、栄養塩類が豊富なため、春になると植物プランクトンが多く発生します。さらにそれを食べる動物プランクトンも増えてきます。これらのプランクトンは魚の格好のエサとなるため、親潮流域は生命を育む豊かな海として知られています。また、親潮海域では、マコンブのような大型の褐藻が多く見られます。

マコンブは水深2mから30m位の岩場に分布し、2mから7mくらいの長さになりますが、中には10mになるものもあります。

海藻類はウニやアワビなどのエサになり、海藻が繁茂する海中林は稚魚たちが生活する大切な場所となります。

▲マコンブ

(2) 表層にすむ魚

親潮はプランクトンが多く、それらをエサとして、多くの魚があつまります。ニシンはオキアミなどの動物プランクトンを食べる親潮の代表的な魚です。ニシンは、3月から5月の産卵期になると沿岸の海藻などに卵を産み付けます。孵化した稚魚たちは沿岸で群れをつくって生活し、孵化後約3ヶ月ぐらいになると沖合へと移動します。その後、夏になると北上し、冬になると南下して越冬する南北回遊をします。

また、サンマやマイワシのように春から夏にかけてエサを求めて親潮海域まで回遊してくる魚もいます。

▲ニシンの群れ